

フォトニュース

長寿のお祝いに町長が高齢者を訪問



敬老福祉月間の9月3日、真田町長が今年2月に100歳になられた藤田秀子さんを訪問し、記念品の贈呈と長寿のお祝いの言葉を贈りました。藤田さんは終始笑顔で、町長の訪問を喜ばれていました。

現在、町内には108歳の女性を筆頭に、100歳以上の方が5人おられます。

オリジナル曲を熱唱！



▲8月31日、文化体育館でたそがれコンサート & TEENS' MUSIC FESTIVALが行われ、約500人の来場者がコンサートを楽しみました。10代の若者を中心とした音楽グループ8団体が、それぞれのオリジナル曲などを熱唱しました。また「イナウィーンズ」「猪名川源流太鼓」の演奏で、会場は大いに盛り上がりました。

身振り手振りを交えてスピーチ



▲9月7日、社会福祉会館で町国際交流協会主催による第17回猪名川町英語スピーチコンテストが開催されました。参加した中学生・高校生61人は、発音やイントネーションに気を使いながら身振り手振りを交えて発表しました。

いな 歴史ウォーク 66

山争いと五万日の預かり

山争い(山論)は室町・鎌倉時代から見られますが、豊臣秀吉による太閤検地以降村境が確立され、林野の境界をめぐる争いも江戸時代から特に多くなります。

現在はパークタウンとなっている塩瀬山も度々山論の舞台となりました。延宝7(1679)年2月の「塩瀬山証文」では、塩瀬山は古来上野・広根・柏梨田三ヶ村立会山でしたがこの度の検地で山親一ヶ村を定めるよう御奉行様の仰せ付けがあり、広根村を山親に定めるとあります。安政5(1858)年4月4日付の「取替約定」では広根村と南田原村が争う場(論所)を上阿古谷村



▲山論絵図(享保6年)

庄屋隼之助が五万日預かり、南田原村が草刈場とする事が決まりました。この論所はのち明治25(1892)年に南田原が買い取り、現在は文化体育館などが建っています。百数十年もの長期の預かりで争いを収める手法は、同年4月27日にも長谷村(宝塚)と広根村の塩瀬山論でも使われ、隼之助の七万日預かりで決着がつかしました。

温かな人の輪を広げよう



▲8月23日、文化体育館で人権を考える市民のつどいが開催され、約170人が参加しました。つどいでは、18歳のとき交通事故で手足が不自由になり、介助犬アトムに支えられながら車椅子での生活を送る読売新聞社の館林千賀子記者が講演しました。「これまでの苦労もアトムがいるから乗り越えられた」と話し、介助犬に対しての理解を呼びかけました。

セアカゴケグモにご注意ください！

つつじが丘5丁目地内で、セアカゴケグモが町内で初めて発見されました。

セアカゴケグモは、体長約1cm(足は含まない)で、日当たりのよい側溝の内部や、雨水桝などに生息し、アリなどの昆虫を食べます。

このクモは毒を持っており、咬まれた時は、針で刺されたような痛みを感じ、その後、咬まれた場所が腫れたり、熱く感じたりしますが、まず死亡するということはありません。

見つけた場合は、市販の殺虫剤で容易に退治できますので、素手でさわったり捕まえたりせず、殺虫剤で処理し、その後、環境対策室までご連絡ください。

問い合わせは、環境対策室(766-8712)へ。



▲セアカゴケグモ

▼プールのシャワー冷たかったね。最後までじっくり描きました。

すぎはら 杉原 幸奈さん(年少)



猪名川幼稚園



▲絵本「にじいろのさかな」のにじ魚を伸び伸びと色彩豊かに表現しました。

おおつぼ 大坪 鉄英くん(年長)

ふるさと館の裏の川で遊びました。友達と遊んで楽しかったです。

きのした 木下 春花さん(年少)

▼ザリガニ釣りで釣ってきたザリガニを、よく観察して描きました。

とくもと 徳本 圭亮くん(年長)

